

幼児の質問の扱いについて

吉野美智

子どもの質問——まったく単純です。しかし私たちおとなは、たびたびこの単純な質問に窮し、その場をこまかしてしまふ。ことがあります。単純な人間ほど扱いやすくもあり、扱いにくくもあるのです。

相手が単純な子どもであるので、当然その答もわかりやすく、「単純さ」が要求されます。子どもの質問は、その急所をついて、自分の納得のゆくまではげしく追求する。子どもの質問も年齢・性格・知能・生活環境などによって違ってくるし、その答も当然それらによって違ってくるでしょう。子どもは一度教えられたことは、相当大きくなるまでそう思いこみ、おとなになっても一生、心のどこかに宿つてると思っています。だから教えるおとなも相当責任を持たねばなりません。相手は小さい子どものその場限りの質問などと言って無責任な答

え方をするとき、ここにおいて、おとなの答が問題になってきます。その答が子どもの性質に将来に非常な影響を及ぼします。子どもはおとなを信頼し、必ず自分の質問には解答を与えてくれるものと思つているのです。

子どもがとくに一しよに毎日生活して居る人たちに對して質問し「うるさい！」とばかり言われていたらどうだろう。子どもはその後何に對しても追求する心が失われ、何事にもあきやすい人間になつてしまつてしよう。子どもが質問して居る時の顔は真剣そのものです。子どもの心はそれにのみ奪われます。子どもの質問に對して「そんなこといいから外で遊びなさい！」などと言つても、子どもは言うことをききません。ある程度（小学一年位）大きくなると子どもは、だいたいのことは解つていても、そ

れをはつきりさせるために質問するのであるが、子どもが質問するのは全然わからないから質問するのです。では子どもの質問例を上げてみましょう。私の家にも子どもがいらないし近所でも子どもに接する機会がありませんが、時々遊びにくる私のいとこについて例を述べてみます。(男子・満三年九ヵ月・今春四月より幼稚園)

例一、先日、昼食後、お湯の入った茶碗にハシを入れていたずらしていたが、不意に、

子「ハシがまがっちゃった……」と泣きべそ、

私「ハシをお湯から出してごらんなさい。ネーまっすぐでしょう。今度は入れてごらんなさい。あつ、まがっちゃった。水の中へ入れるとまがつてみえるのよ。」

子どもは解つたような解らないような顔をしてはしを入れたり、出したりしていたが、すっかりおもしろくなつたと見え、ニコニコとさかんに出したり入れたりしている。でもまだ「どうしてまがつて見えるの？」とは質問しなかつた。私は彼がよく目にとめてくれたとうれしかった。

例二、動物たちと自分の相違

(1)ある日、野原へ連れて行った。山羊が草を食べていました。

子「どうして草ばかり食べるの？ このお

にぎりヤギに食べさせようか。」

私「ダメダメ、山羊はおにぎり食べないのよ」

私は山羊は肉や魚は本当に食べないのかな？ と自問してみてもおかしくなった。

(2)犬や猫が手をつかわず口だけで食事をしてるのを見て、

子「どうして口だけでたべるの？」とまねました。

私「そんなことをすると犬になっちゃうのよ！よしなさい！」

彼は真剣な顔をして犬になってしまおうのではないかと心配顔。私ははっとして急いで、

私「犬にならないから大丈夫よ。犬はね、ああして食べるのが一番食べやすいのよ。

坊やおはしで食べるのがいいでしょう。」

彼はおとなしく、うなずいてはしをとって食べはじめた。

犬猫が四つ足で歩くのを見て、

子「どうして僕のように立って歩かないの？」

私「四本足の方が歩きやすいから。」

(3)飛ぶ鳥をみて、

子「どうして鳥には羽があって僕にはないの？」

私「鳥は小さいから道を歩いているとバスやハイヤーに引かれちゃうのよ。だからお空を飛ぶのよ。」

例三、先日彼の妹が生まれました。お母さんが病院から赤ん坊をつれて帰宅しました。

子「この子どっから持ってきたの？」

母「よそからもらってきたのよ」

私は考えた。よそからもらってきたと教

えられたこの子は大きくなるまでそう思うに違いない。最も信頼している母親から教えられたのだから。そこで私は子どもの時に私の母から教えられたように「坊や、この子は坊やと同じようにお母さんのお腹から出てきたのよ。だから坊やの妹なのよ。いじめてはだめよ、うんとかわいかわいするのよね、わかった？」

例四、電信電話機について

(1)私がラジオのダイヤルを廻していると側にきて「やらして」と言う。ダイヤルを廻していると第一、第二、東北放送と次々に出てくる。

子「ここまわすと、どうして違うとこ出てくるの、どこで唯がしゃべっているの？」

私「放送局でね、おじさんがしゃべったのがこの線を通してきこえてくるのよ。」

坊やはそれ以上質問しなかった。今では坊やが一人でラジオをかける。

(2)私がレコードをかけていると、子「どうしてきこえるの？ どこでうたっているの？」

私「……(窮する)レコードから声が出てくるの……」

子「……」げげんそんな顔。私は子どもの時「この箱の中に小人が入って歌っている」と教えられ、唯もない時そっと中を調べてレコードを割って叱られた思い出がある。まったく子どもの質問は難しいものです。以上「質問について」以外のくだらないことを述べましたが、これからも子どもの質問・その返答を研究したいと思えます。

(尚綱短大保育科学生)